SAGAMIHARA GREEN

URL https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp

相模原市まち・みどり公社機関紙
さがみはらグリーン

★「さがみはらグリーン」は、まち・みどり公社本社（けやき会館内）をはじめ、市内の市立公園や公民館、図書館等に配架しています。

Vol.65 2021.09

キチジョウソウ（クサスギカズラ科）
花期：10月～11月
相模原木もれびの森や道保川公園の沢沿い等で見られます。
写真提供：NPO法人相模原こもれび

さがみはらSDGsパートナー

相模原市まち・みどり公社は、「さがみはらSDGsパートナー」登録団体です。

2～3ページ▶

矢澤秀成先生に学ぶ
秋から春まで花壇を明るく飾る花

みどりのボランティア団体紹介
～NPO法人 境川の斜面緑地を守る会

4ページ▶

市内の動植物を訪ねて
森の宝石・ゼフィルス ―ミドリシジミの仲間―

里山をお手本にした庭をつくろう～SDGsに貢献する「みどり」のあり方～

国連生物多様性の10年市民ネットワーク 代表　坂田 昌子さん

ツリフネソウ

チゴユリとホソオビヒゲナガ

艶やかな花が溢れる庭は、一見素敵ですが、北米や中南米等を原産地とする花であったり、品種改良され蜜も出ず、タネもつけない品種も見受けられます。

また、多様性を欠いた「緑色なだけ」の庭では、野鳥も昆虫たちもやってきません。もともとその地域に生息している植物と生き物たちは、長い年月をかけ共生関係を作りあげています。ツリフネソウは、マルハナバチが蜜を吸うのにちょうど良い大きさの花を咲かせ、そのからだに花粉がたっぷりつくようにできています。ヤマザクラは、シジュウカラやヤマガラなどの雛の巣立ちの時期に合わせてサクランボを実らせます。くちばしが小さい彼らの口に合うよう小さな実をつけ、タネを運んでもらっているのです。

その土地にもともとある植物を植えることであなたの庭は小さな里山になります。春にはウグイスやメジロがさえずり、夏にはアゲハチョウやトンボがやってくる、そんな庭があちこちにあれば、町は豊かな生態系ネットワークとなります。生き物がやってくる庭づくりは、SDGsの重要な目標である生物多様性の損失を止め、持続可能な地域づくりに大きく貢献します。

アサヒナカワトンボ

コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社は、相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」に協賛しています。

公益財団法人 相模原市まち・みどり公社は、地域のために活動する自治会を応援しています。

矢澤秀成先生に学ぶ

秋から春まで 花壇を明るく飾る花

矢澤秀成 先生プロフィール

◇やざわ花育種株式会社代表取締役社長。新しい草花や野菜などを育種、及び植物の販売を行っている。
◇全国各地の植物園ヘッドガーデナー、公園監修やデザインを行っている。
◇NHK教育「趣味の園芸」、NHK総合「あさイチ」、TV神奈川「猫のひたいほどワイド」、FMヨコハマ「SHONAN by the Sea」、TOKYO-FMなどの園芸番組講師はじめ、講習会や花の講演活動多数。
◇「花のマイスター養成制度」を2003年よりスタートさせ、全国各地の公園で開校。
◇「世界にひとつだけの花」を子どもたち一人一人に咲かせてもらう、命の大切さの授業「育種寺子屋」を全国各地で実施。

カレンジュラ／ポット・マリーゴールド
(和名：キンセンカ) [キク科]

秋から早春の花壇を暖色の花で明るく飾ります。国内では２種類が栽培されていて、10月中下旬頃から店頭に並び始めます。

オフィシナリス種（トウキンセンカ）は黄色や橙色などの暖色の花を咲かせ、切り花に適した品種（草丈60cm前後）や花壇や鉢、コンテナ向け（草丈30cm前後）など様々な品種があり、冬から早春の千葉県南部のお花摘みなどにも使われています。霜の当たらない場所で育てます。アルベンシス種は寒さに非常に強く、高冷地でも越冬が可能です。「冬知らず」の名前で販売されており、草丈は20cm前後、橙色の小輪花を咲かせます。

ガーデンシクラメン [サクラソウ科]

花　色：白・赤・桃色のほか、最近は青紫色も出回るようになりました。
咲き方：シンプルな丸弁咲き、ビクトリア系のギザギザ弁咲き、ウエーブが入るロココ弁咲きのほか、豪華な八重咲きなど

耐寒性のあるガーデンシクラメンは、霜に気を付ければ、首都圏や南関東では屋外での栽培が可能です。早いものは、９月中旬前後から店頭に並び始めますが、この時期の苗は、涼しい高原で栽培されたもので、まだ残暑が厳しい相模原周辺では、こうした苗には厳しい環境になります。株が痛んだり、花上がりが悪くなるので、暑さ寒さが和らぐヒガンバナの花が終わる頃の10月中下旬から11月下旬の苗購入をお勧めします。

■ガーデンシクラメンは葉の数だけ花を付けます。葉枚数が多く、葉の大きさの揃っている苗を選びましょう。
■購入後の植替え時のポイント：球根の半分が見えるように植えましょう。
■水はできるだけ地際へやり、葉身の根元付近に水が溜まらないようにします。溜まった水が夜間に凍結し葉や茎、球根を傷めることがあります。
■耐寒性があるとはいえ、数日間にわたり霜が当たると枯死することもあります。寒い冬は、鉢植えにして場所を移動したり、夜間は不織布をかけるなどして寒さから守ってあげましょう。
■涼しい地域では、品種によっては夏越しが可能です。夏の夜の温度が高い地域では夏越しが難しく１年草扱いになります。

プリムラ・ポリアンサ／プリムラ・ジュリアン [サクラソウ科]

花　色：赤・桃・黄・紫色など
咲き方：アコーリス咲き、パラソル咲きなど
ポリアンサは花径５～６cmの花を咲かせ、最近は豪華なバラ咲き品種も多くみられます。バラの様に爽やかな甘い香りがします。ジュリアンはやや小さい花径４cm前後の花を咲かせます。

バラ咲きのP・ポリアンサとガーデンシクラメンの寄せ植え

P・ポリアンサやP・ジュリアンは、プリムラの原種を交配して育成されました。花の少ない秋から早春の花として、重宝されています。高温多湿の気候が苦手なため、国内では冷涼な地域を除いて一年草として扱われることが多いです。どちらも、庭植えや鉢、コンテナ栽培に向いています。ジュリアンの極早生品種の販売は９月下旬頃から始まりますが、相模原はまだまだ残暑厳しい時期にあるので、ヒガンバナの花が終わる頃の10月中下旬から11月下旬頃の苗の購入がお勧めです。ポリアンサは10月下旬頃から早生系品種の出荷が始まります。

■種まきの場合は、６月中下旬から７月に行いますが、暑い時期なので栽培が難しく、秋に苗を購入することをお勧めします。
■花弁に水が溜まらないように注意して水やりします。
■終わった花は、こまめに花茎と一緒に摘み取りましょう。タネができると株が弱り、花付も少なくなります。

パンジー＆ビオラ [スミレ科]

秋から春まで多くの花壇を彩ってくれるパンジーとビオラは、花の少ない時期には欠かせない植物です。
種まきはヒガンバナが咲き始める９月中下旬から10月上旬までに行います。参考書によっては８月に種まきと書いてあることもありますが、気温の高い時期の種まきは、発芽不良を起こしやすいので、夜温が下がり始める秋の彼岸に播きます。花期は12月上旬前後からになります。秋から花を楽しみたい場合は、花付き苗を購入しましょう。

最近は９月下旬頃からビオラが店頭に見られますが、この時期のビオラは、涼しい高原で栽培・出荷されているため、残暑厳しい相模原周辺では株が蒸れて痛んだり、成長が止まったりします。ビオラもパンジーもヒガンバナの花が終わる頃の10月中旬から11月中旬の苗購入をお勧めします。寒風が直接当たらない日当たりの良い場所で栽培しましょう。

以前は、花の大きさでパンジーとビオラを区別していましたが、育種が進み多くの園芸種が作出され、花の大きさだけでは専門家でも区別できなくなってきました。昔のパンジーやビオラは、低温と長日下で開花する品種が多く、秋の時期は余り花を付けず、３月上旬頃から沢山の花を付ける品種や原種が多数でしたが、その後、育種や山上げ技術が進み、秋から多くの花を付けるものが多くなりました。最近はエディブルフラワー（食用花）としても販売されるようになりましたね。

■花が終わったら、こまめに花茎を一緒に摘み取ります。タネが付くと株が弱り、花付が悪くなります。

【共通】苗購入後の植え替えと施肥

■購入後は早めに花壇や鉢、コンテナに植え替えましょう。
■用土は、水はけの良い「草花用培養土」を使います。
■施肥は、緩効性化成肥料は２カ月に１回、または液体肥料を２週間に１回程度、適量を施します。
■日当たりが悪いと花数が減ったり徒長したりしますので、日当たりの良い場所で育てましょう。

みどりのボランティア団体紹介

NPO法人境川の斜面緑地を守る会（相模原市森づくりパートナーシップ協定締結団体）

1995年（平成７年）に発足したボランティア団体です。生物多様性に富む緑地保全を目指して、境川流域の市内外の緑地５か所（※）をフィールドとして活動しています。2006年（平成18年）にはNPO法人に移行しました。

市民の潤いと安らぎの場であり、野生動植物の貴重な生息地でもある都市緑地は、近年、急速に少なくなっています。かつての河畔林にみられた林床植物豊かな落葉樹主体の森を取り戻すため常緑樹の除伐や下草刈りを行うほか、一部の緑地においては、竹林や梅林などを市民レクリエーションや鑑賞の対象となるような管理を行っています。また、調査研究活動として動植物のモニタリング、普及活動として一般向けの自然観察会等も実施しています。平成21年（2009年）に第20回「みどりの愛護功労者神奈川県知事表彰」、平成27年（2015年）には、第26回「みどりの愛護功労者国土交通大臣表彰」を受賞しました。

「春の梅林や林床の花々、夏に時折見られる野鳥の営巣、タケノコ堀りに汗を流す子どもや大人たち・・・。私たちの日ごろの努力が報われる瞬間です。残された緑地を美しい形で後世に残していきたいと思って活動しています。ぜひ、お力をお貸しください。」と代表の荘司さん。飛び入りでの作業体験も歓迎しています。ぜひ、お問合せください。

※橋本河畔林・**古淵1丁目市民緑地**・古淵鵜野森公園・境川森野ふるさとの森（町田市）・高木道正山河畔林（相模原市／大和市）
パートナーシップ協定対象地

除伐した竹の処理

下草刈り作業

ボランティア募集
活動日：５か所の各緑地にて月１～２回の定例活動
連絡先：Eメール　sakaigawa-sr@nifty.com
年会費：正会員3,000円、賛助会員1,000円
※作業参加のみの場合は、年会費不要

相模原市森づくりパートナーシップ協定締結団体とは…

相模原市内に残された良好な自然環境を将来にわたって保全・継承していくため、市が維持管理方針を定めた区域について、市とルールを協議して協定を結び、市民の皆さまの手で森づくりの活動を進めていただいている市民活動団体です。現在、市内５ヵ所・５団体が協定を締結しています。
（公財）相模原市まち・みどり公社は、この活動・団体を支援しています。

市内の動植物を訪ねて

森の宝石・ゼフィルス
―ミドリシジミの仲間―

文・写真　日本蝶類学会理事　長谷川 大（たかし）氏

“ゼフィルス”とは古代ギリシアの神話に登場する西風の神です。昆虫を研究する人たちの間では、ミドリシジミの仲間をこの風の神にちなんでゼフィルスと呼ぶ習慣があります。ミドリシジミといっても、すべての種類がグリーンのはねを持つわけではなく、あざやかなオレンジ色やむらさき色、パールのような銀白色のはねを持つ種もいて、森の宝石と呼ぶのにふさわしい仲間です。ゼフィルスは日本に25種類が知られ、そのうち相模原市には15種類ほどが生息しています。

南区の市街地にある“木もれびの森”には、アカシジミやミズイロオナガシジミなど５種類のゼフィルスが住んでいます。その幼虫たちは新緑の頃、主にクヌギやコナラなどドングリのなる木の若葉を食べて成長します。５月半ばから梅雨どきにかけて羽化した成虫は、ふだんは林の中でひっそり暮らしているため目につきませんが、決まった時間にオスがいっせいに活動する習性があるため、コツさえつかめば観察は容易です。

例えば、陽が傾く午後４時半ごろ、木もれびの森入口交差点の歩道に立って、付近に生えているクヌギやコナラのこずえを見上げてください（自転車や歩行者に十分気をつけましょう）。オレンジ色のはねを持つアカシジミが、西陽の当たる場所を目指して次々にやってきて、時おり２、３匹が絡み合いながら飛び回る姿を観察できます。

同じ市内でも緑区の“奥山”には異なる種類のゼフィルスがみられます。JR藤野駅の北側、都県境にそびえる陣馬山には、幼虫がカシワを食べて育つハヤシミドリシジミが住んでいます。その名のとおりオスのはねがメタリックグリーンに輝く美しい種類で、このチョウもアカシジミと同じく夕方に活動します。山頂付近に広がる草原の所々に生えるカシワの周囲が彼らの活動の場で、時期は７月上～中旬、運が良ければ低い枝先で美しいはねを拡げて日光浴をする姿が見られるかもしれません。

アカシジミ

ミズイロオナガシジミ

ハヤシミドリシジミ（撮影：久保田瑛子氏）

緑の募金運動【秋期】のお願い

秋期募金強化活動は、９月１日～ 10月31日に行います。
（※募金は、上記期間以外でも常時受付けいたします。）

「緑の募金運動」は、「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき実施しており、森林整備活動や緑化の推進のほか、被災地域の復旧・復興等に活用しています。

相模原市内で集められた「緑の募金」は、市内の緑化推進等にも活用されます。ぜひご協力をお願いします。

相模原市まち・みどり公社が推進する「みどり豊かなまちづくり」を応援しています

広告
KIRIN

広告

2021年９月１日発行／ 編集・発行者・発行所：〒252-0236 相模原市中央区富士見6-6-23　公益財団法人 相模原市まち・みどり公社
TEL：042-751-6623　FAX：042-751-2345

本紙に対するご感想、ご意見をお寄せください。ホームページにもぜひアクセスを… https://www.sagamiharashi-machimidori.or.jp